



## AI時代に生き抜くために、自ら考え判断する力をより大切にします

校長 博多 正勝

先日、あるテレビ番組を興味深く見ていました。胃カメラでの診断に AI 技術を取り入れ、より正確な診断を行えるようになったようです。昨今、コンピュータの性能が向上したことにより、コンピュータが「自分で学ぶ」という、AI（人工知能）技術の発展が目覚ましいです。

また、「生成 AI」という言葉も最近よく耳にします。それは AI の一種で、AI 技術を用いて楽曲や画像、動画、プログラムのコード、文章等、クリエイティブな成果物を生み出すことができます。「ChatGPT」は、「生成 AI」の一つです。生成 AI は業務の効率化や品質向上を図るために、多くの企業や東京都、渋谷区等の行政でも取り入れられています。この5月に渋谷区教育委員会より、教育職員用に生成 AI 「Microsoft Azure OpenAI Service」が導入されました。私も生成 AI を用いて、6月号の学校だよりの冒頭文を作成してみることに。生成 AI には「学校だより 校長あいさつ」「6月号のため初夏を感じるもので、運動会の練習の様子を入れる。」「300文字で」のプロンプト（指示）を出してみると、以下の文章が1, 2分程度で回答されました。

皆様、こんにちは。いつも学校生活を支えていただき、心から感謝申し上げます。

初夏の訪れとともに、学校は新緑の美しさでいっぱいです。この清々しい季節、子どもたちは新学年にもすっかり慣れ、学びに対する意欲を更に強く燃やしています。また、各学年が運動会の練習に力を注いでおり、一丸となった子どもたちの姿は非常に心強いものがあります。

しかし、暑さが増すにつれて体調を崩しやすい時期でもあります。保護者の皆様、子どもたちの健康管理には十分ご注意くださいようお願い申し上げます。

私たち学校としては、皆様の期待に応えられるよう、教育の質を高めるための取り組みを進めて参ります。皆様の温かい支援とご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

一見、もっともらしい文書で驚きです。最初は200文字で依頼しましたが、内容が薄いため、300文字にすると読みやすくなりました。ただし、実際に私が学校だよりとしてそのまま提示するには、物足りない気がします。やはり、5月の子供たちの様子や運動会練習の詳細、熱中症対策での学校としての対策等、お家の方に学校の様子がより想像できるような内容にしていきます。あくまでも「たたき台」であり、より推敲が必要なことを感じました。

生成 AI は持ち得ている様々なデータを統計的に分析し、出現確率が高い文字を予測して回答しているため、事実に基づいた情報ではありません。こちらの聞き方や時期によって回答内容が異なってきます。生成 AI はあくまでも思考の補助であり、利用者自らの経験や知識等に基づいて、生成された内容をより良く磨き上げていくことが重要です。

また、こちらの指示によって、既存の著作物に係る権利を侵害する文書を作成してしまうこともあります。そのため、各企業や行政でガイドラインを作成しています。文部科学省も「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」（令和5年7月）を出しています。

そのガイドラインには、各種コンクールの作品やレポート・小論文等について、生成 AI による生成物をそのまま自己の成果物として応募・提出することは、適切ではないと記載されています。

生成 AI は年齢制限があり、小学生の利用は推奨されていません。13歳以上18歳未満までは保護者の同意が必要とされています。同時にネット上の無料の ChatGPT は、個人情報等を他のユーザーの回答として利用される可能性があるため、大人が適切に管理する必要があります。

ただし、これから生成 AI は大人だけではなく、教育の分野でもより活用されていくと考えられます。文部科学省は「生成 AI パイロット校」を全国に設定し、東京都でもいくつかの小学校が授業で取り組み始めています。文科省のガイドラインと一緒に URL を掲載します。ぜひ、ご一読ください。デジタル教育も「探究的な学び」の一つとして進めていきます。

文部科学省ガイドライン [https://www.mext.go.jp/content/20230710-mxt\\_shuukyo02-000030823\\_003.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230710-mxt_shuukyo02-000030823_003.pdf)

パイロット校実践例 <https://leadingdxschool.mext.go.jp/report/?pid=132&rid=1895#block-1895>